

島根大学医学部内科学講座第四医局報

道



～平成 26 年秋号～



2014年9月、サグラダ・ファミリア(バルセロナ)

『道』

この道を行けば
どうなるものか
危ぶむ無かれ
危ぶめば道はなし
踏み出せば
その一足が道となり
その一足が道となる
迷わず行けよ
行けばわかるさ

～ タイトル『道』の由来について ～

『道』というタイトルの詩…。元々は、一休禅師の言葉だといわれていますが、一般にはアントニオ猪木が引退セレモニーのリング上で、ファンに送った最後のメッセージとして知られています。

田邊教授は、何か新しいことにチャレンジするとき、いつもこの詩を思い浮かべ、そして新しい道を切り開かんとする若者に、この詩を贈ってきたそうです。

島根大学医学部内科学講座第四も、常に前向きにチャレンジすることを忘れず、ただひたすらに医師としての『道』を進んでいこう…そういう想いを込めて、この『道』というタイトルを選びました。



師走の候、皆様にはますますご盛栄のこととお慶び申し上げます。この夏から秋にかけては、各地で災害が起き、また地球規模でも予断を許さぬ感染症や戦争状態が日々ニュースとして伝わってきます。日本人であることは、多くの自然災害と一緒に生きることを意味します。災害現場で必死に戦っておられる医療関係者に思いを馳せながらも、我々も直面する日々の戦いに全力を傾注し、地域に貢献できるチームでありたいと願っています。

さて、循環器内科は毎朝 ICU（月曜日のみ医局）に集合し、医学科6年生、研修医、若い医局員とともに症例カンファレンスを行います。若い医師とディスカッションを重ねながら、日々新しい扉を開けるような時間を過ごしています。「眼前の悩む医学に未来へのヒントがある」は沖中重雄先生の最終講義のお言葉だそうですが、若い医師たちが眼前の悩める症例から、新しい扉を開ける瞬間を手助けすることができる日は爽快な気持ちになります。またある時はこちらがモヤモヤとしてきて一緒に勉強させてもらう機会になります。振り返ってみると、医師としての日々は運命の扉を開けてきた連続かもしれません。今日の経験こそが明日の自分を助けてくれます。

手術のわかる内科医になる

弁膜症の手術適応の話題になると、神戸市立医療センター中央市民病院勤務時代のエピソードが思い出されます。当時心臓外科部長であった岡田行功先生（現神戸市・みどり病院）に言われていたことが「手術のわかる内科医になれ」ということでした。岡田先生は弁膜症手術の名手で僧帽弁形成術は1,000例以上の症例数です。その岡田先生は、時間があると心エコー室にやって来られ、心エコー画像についてディスカッションさせていただき、時には日本心エコー図学会やアメリカ心エコー図学会にも顔を出されました。逆に内科医のことを理解しようとされる心臓外科医であったのだと思います。岡田先生はこちらの都合は関係なく「すぐに手術室へ来い」と呼ばれます。紹介した症例の手術の一番いいところを見せてくれるのです。外科医が術前検査でどこを見てほしいのかということも実際の現場で教えていただきました。弁膜症のシンポジウムを阪神地区で立ち上げられた際には（阪神弁膜症シンポジウム、後に日本心臓弁膜症学会に発展）、アメリカ・モンタナ州で開催された国際弁膜症シンポジウムに二人で行かせていただきました。心臓外科、循環器内科、麻酔科、コメディカルが一堂に会する機会に「これを日本でやりたいんだ」と語られる岡田先生と夢を共有させていただく貴重な体験でした。心臓外科手術を知ることによって私自身の患者、家族に対する手術の説明が変わっていったのは確かです。若い医師のみなさんは積極的に外科手術を見せてもらって欲しいと思います。自分が手術を勧める患者がこれからどんな手術を受けようとしているのかを知り、術後はどのような経過をたどるのか、どんな患者がリスクなのか経験していくことが必要です。「あなたならこの手術を乗り切れます」と後押しできればいいですね。

臨床研修マッチングの結果が2014年10月23日に発表され、島根大学病院を含む県内臨床研修病院の定員95名に対して54名がマッチし、昨年より5名増加の結果でした。島根大学病院のプログラムでは定員48名に対して25名がマッチしました。昨年度が16名でしたので9名の増加となり、例年の状態に戻ったということです。今の6年生は85名が卒業予定ですが、その内の43名（51%）が島根県内の病院にマッチしてくれました。



モンタナの風に抱かれて

例年が20～30%ですのでよく残ってくれました。学年ごとのカラーがあるのも事実であり、来年以降もこの傾向が続くことを願うばかりです。

最後に、2014年11月8日（土）、9日（日）に日本内科学会中国地方会、生涯教育講演会に多くの先生方にご出席いただき感謝申し上げます。しまねっこも登場してくれて、島根をアピールできました。与えていただいた機会を盛り上げようと最後まで工夫する熱意が実ったと思います。引き続き、医局員一同が魅力ある集団として前進していきたいと思います。今後ともご支援よろしくお願い申し上げます。

医局報告

循環器内科 講師（学内） 高橋 伸幸



医局長の高橋伸幸です。先日の11月8日、9日に島根大学医学部看護学科棟を主会場にして、第111回日本内科学会中国地方会、第51回中国支部主催生涯教育講演会を主管させて頂きました。1年前に事務局として作業を開始しましたが、既に宿泊が確保困難になるなど波乱の船出でした。そして演題登録も伸び悩み、締め切り1週間前で18題という悲惨な状況で、本気で悲鳴を上げていましたが、最終的には212演題という大変な数の演題を頂く事が出来ました。そして11月8日の地方会は約700名の御参加という山陰では稀な盛会となりました。今回は“しまねっこ”に表彰式・閉会式に参加してもらうという作戦を立てましたが、参加者の先生方よりも、私自身が大喜びであったのは嬉しいやら恥ずかしいやらでした。また、翌11月9日の生涯教育講演会も全国から大変著名な5人の豪華講師陣をお招きする事が出来ました。当日は冷たい雨の中にもかかわらず、155名もの先生方が御参加して頂きました。スタッフとして大活躍して下さった学内の医局員の先生方、資料室の皆さん、本当に有難うございました。受付、会場管理に加え、自身も演題発表したり、冷たい雨の中で車の誘導をしてくれたり等々本当に感謝の一言に尽きます。また、座長・専門医セミナーの大役やスキルアップセミナーの講師、演題発表をして下さった関連病院の先生方、本当に有難うございました。そして、多くの同門会の先生方が御参加頂き、スタッフに温かい声をかけて頂くなど、様々な御支援を頂きました事に心から御礼申し上げます次第です。全ての関係者の皆さん、そして全ての御縁に心から感謝したいと思います。

ところで、今春は腎臓内科に岩下裕子先生、佐藤陽隆先生、高瀬健太郎先生、芦村龍一先生の4名、循環器内科には足立優也先生、岡崎浩一先生、黒田紘章先生、森田祐介先生、山口直人先生の5名が新たに入局してくれました。同門会総会で全員が御挨拶致しましたので、多くの同門の先生方は既に御存知の事と思いますが、9名全員本当に素晴らしい面々です。勿論、普段から感じてはいましたが、今回の学会運営を通して改めて実感しました。更に嬉しいお知らせですが、原稿を書いている11月の時点で、三浦重禎先生、坂本孝弘先生、そして安田優先生（安田勲先生の御子息）が来年春からの循環器内科への



入局を決断してくれました。彼ら3人も本当に素晴らしい面々ですので、どうか御期待下さい。

確かに内科学講座第四の医局員は以前に比べれば増えております。しかし他大学や学内の他の内科系診療科と比べるとまだまだ少ない方です。県内の非常に多くの病院から医師派遣の依頼がございますが、依然としてなかなか良い御返事が出来ない状況です。臨床・教育・研究の全てを充実させ、未来を見据えて国内外への留学を推進し、そして何より島根県全域の地域医療を守るためにも、一人でも多くの若人が内科学講座第四への入局を志してくれる事を願ってやみません。これからも医学生や初期研修医へ“四内”の素晴らしさを伝え続けたいと思います。

なお、後述の業績の欄にありますように、学会発表は益々盛んに行われております。そして論文数も着実に増えて来ております。ただし、今年春の厚生労働省からの特定機能病院の承認要件の改正があり、「英語論文が年間70本以上（査読のある学術雑誌に掲載されたもの）」という条件となりました。論文を書く事、とりわけ英語論文を書く事は、個人や医局にとっての問題のみならず、病院全体での大きな問題であり、この分野でも内科学第四の貢献が問われています。

最後になりましたが、内科学講座第四が今後も素晴らしい成長を遂げていきますように、関連病院の先生方や同門会の諸先生方の益々の御指導・御鞭撻のほど何卒宜しく御願い申し上げます。

医局報 ～秋号～に寄せて

腎臓内科 講師 伊藤 孝史



今年は暑い夏があったのかと思うくらい短くて、、、気がつけば今年もあと少しになりました。この半年の腎臓内科の動向について、報告させていただきたいと思います。

平成26年度は、腎臓内科は過去最高の9名で業務を開始しました。入院患者数も増えてきたおかげで、配分病床数も初めて2桁になりました。10名以上の入院患者さんを維持することはまだ難しいのですが、地域医療でお世話になっている病院からの入院患者さんが増えています。ポリクリの学生さんや研修医の先生達には多くの症例を一緒に診てもらうことができるので、より有意義なポリクリ、研修ができていると思いますし、我々腎臓内科としてもより多くの経験を積むことができいております。また、10月からは長谷川志帆先生が大学から島根県立中央病院に出向し、島根県立中央病院から岩下裕先生が大学に戻り、救急部に出向してくれています。

学会活動では、6月12～13日に神戸で行われた日本透析医学会総会には2演題、7月4～6日に横浜で行われた日本腎臓学会総会には2演題（一般演題1題と学会特別企画1題）、7月12～13日に岐阜で行われた日本サイコネフロロジー研究会には2演題（一般演題1題とモーニングセミナー1題）、9月6～7日に山形で行われた日本腹膜透析研究会では3演題、9月27～28日に東京で行われた日本アフレシス学会では3演題（一般演題1題、アフレシスマニュアルレクチャー1題、ワークショップ1題）、10月3～4日に神戸で行われた日本腎臓学会西部学術大会には3演題（一般演題2題とランチョンセミナー1題）、10月12日に大阪で行われた近畿臨床工学会では特別講演1演題の発表を行いました。



10月26日に広島で行われた島根県主催の中国腎不全研究会（大会長：松江赤十字病院漆谷義徳先生）では、私はシンポジウム委員長を仰せつかりました。中国五県から5名のシンポジストをお迎えし、「腎不全治療における地域差がかかえる問題点を考える」と題して行いました。中国地方における問題点を提示して、参加者全員で今すべきことを考えました。また、一般演題では大学から6演題（看護師さんも1演題！）、関連病院から7演題の発表をし、島根県主催を盛り上げてきました。花田健先生、福永先生にはポスターセッションで座長デビューもしていただきました。5年後に島根県に主催が回ってくる時には、もっと成長した姿を見せてくれることを期待しています。

そして、田邊教授が大会長として主催された日本内科学会中国地方会では、腎臓部門に14演題も集まり、当科からは研修医の先生2名を含む4演題、関連病院から1演題を発表しました。私自身は専門医部会教育セミナーの司会を仰せつかりました。島根県立中央病院循環器科の朴美仙先生、卒後臨床研修1年目の宇賀田圭先生には、素晴らしいプレゼンテーションをしていただきましたし、循環器内科の菅森峰先生には素晴らしいコメントを頂きました。また、膠原病内科の角田佳子先生、出雲市総合医療センター病理部の宇野千恵先生にもコメント、病理解説をいただきました。同門の先生方をはじめ多くの先生にご参加いただき、活発な質疑応答もあり、大役を果たせたのではないかと考えております。ありがとうございました。

以上のように今年も多くの発表をすることができましたし、発表に際しては上級医が後輩、研修医の指導にも力を入れて頑張ってくれており、腎臓内科の実力が着実にあがってきていることを実感できましたが、慢心することなく精進していききたいと思います。

CKD啓発活動の一貫として、9月14日に第4回目の市民公開講座を『慢性腎臓病(CKD)対策～糖尿病をコントロールし、腎臓を守ろう！～』と題し、内科学第一の守田美和先生、栄養治療室平井順子室長、そして伊藤の3名で出雲市民会館において開催いたしました。CKD、糖尿病と腎臓病、食事療法について、十分な時間を取って行うことができました。ご協力いただいた医局員、研医の先生に御礼申し上げます。世界腎臓デーにあわせたビラ配りと同様に、CKD対策として毎年実施する予定ですが、今後は島根県西部にも広げて行こうと考えています。

学生・研修医の勧誘を目的に、例年7月には医局説明会を行っております。今年もたくさんの学生・修医の先生が参加してくれました。11月19日現在腎臓内科への入局者はまだ決まっておりませんが、その中から将来の腎臓内科医が出てくることを期待しています。最近全国各地で島根大学出身の腎臓内科医が増えてくれているのも、大きな成果であると思います。いつも活動をサポートしていただいております内科学講座第四同門会の諸先生方に、この場をお借りして御礼申し上げます。

島根大学腎臓内科としては、来年度第58回日本腎臓学会総会のサテライトシンポジウムと第34回日本アフレシス学会関西地方会の主催が決定いたしました。腎臓内科はまだまだ微力でございますので、内科学講座第四同門会の諸先生方にもご協力いただき、盛会にできればと考えております。ご支援のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。今後も山陰両県での腎臓病医療を支え、そして全国、世界に発信できる仕事ができるように頑張っていく所存ですので、ご指導ご鞭撻の程、何卒宜しくお願い申し上げます。

近況報告

東京大学 循環器内科 和氣 正樹

この度は同門会会報で私の近況報告をさせて頂くことになりまして、心よりお礼申し上げます。ご縁があって、現在私は東京大学循環器内科にて基礎研究をさせていただいています。卒後、循環器内科に入局し、島根県内の病院を転々としつつ臨床経験を積んでおりました。医師として6年目の時に不意に北村順先生より東京大学の循環器科で基礎研究をしないかとお誘いがありました。北村先生は現在神戸で臨床をされていますが、私が島根大学附属病院で研修をしているときの指導もしていただきました。私は以前より基礎研究に



家族写真
(中央は長男の寛尚 8 か月、右：妻仁美)

興味があり、そのことを北村先生に相談していました。北村先生の昔の後輩が現在東京大学で基礎研究をしているため、打診してくれていたようです。

自分を育ててくれた島根の医療に後ろ髪を引かれる思いもありましたが、田邊教授の後押しもあり、今年の春より東京で研究生生活を始めることが出来ました。研究生生活のはじめは試験管を握ることなく（今でも試験管は握ったことはありませんが）、いわゆる「勉強」からの開始でした。何も始まっていない状態ながら、研究費申請のために関連する論文を読み、自分の研究分野について理解した上で、専門外の審査官に未解明の内容や展望を伝えなければならず苦心しました。残念ながらその申請は受

理されませんでした。将来、科研費や研究助成を申請する立場になれば必須のスキルであることと感じました。

そして、いよいよ手・体を動かす研究生生活が始まりました。まずは DNA に関する実験からスタートしました。組み換え DNA を作成し、TGF- β というサイトカインの細胞内シグナル相互作用についての研究です。TGF- β は様々な分野で基礎的なサイトカインであり、癌の分野で研究が進んでいますが、特に、循環器分野においては線維芽細胞を刺激し心筋の線維化を亢進したり、マルファン症候群での関与も指摘されている重要なサイトカインです。これは、細胞内シグナルに関する基礎的な実験であり、操作手技・結果の評価方法等、基礎の理解・習熟という意味合いが強いですが、データが出れば論文記載にもつながるような重要な実験でした。残念ながら、今回行った範囲では有益な情報は得られませんでした（研究とはこんなものなのだという勉強になりました）。

現在、本格的な研究がスタートしつつあります。新たに自分に与えられた大きな実験の柱が三つあり、一つ目は、細胞の代謝と代謝産物、代謝産物と細胞機能とのかかわりについてです。中でも低酸素環境における細胞代謝の変化を測定する実験を行っています。二つ目は、DNA と転写因子が結合した状態で DNA を取り出しその配列を分析する実験です。特定の転写因子が働く環境はどのような状況であるのか、どのような遺伝子が調節を受けているのかを調べます。三つ目は心臓の線維化についてです。線維芽細胞が臓器の線維化を起こすことは御存知だと思います。しかし、心臓の細胞の半数近くが線維芽細胞であるという報告さえあるものの線維芽細胞がいったい何者なのかはわかっておらず、どのように活性化を受けているかもわかっていません。その線維芽細胞を活性化する因子として代謝機構や代謝物が重要なのではないか、との仮説に基づき有機酸を中心に研究を行っています。また、動物実験ではマウスの横行大動脈結紮術に取り組んでいます。顕微鏡下にマウスの横行大動脈を結紮し、圧負荷をかけます。この刺激により心線維化の進行を評価します。なんと、動物実験施設にはマウス専用の心エコー装置があり、2D だけでなくドプラーもついています。なお、マウスの心拍数は 400-700/min です。人間でいえば心房細動並ですがマウスにとっては洞調律です。基礎研究と言えば、小さな発見をして、論文を書いて、うまくやれば論文量産体制がすぐにとれると思われがちですが、最近は難しくなってきた



東京大学医学部附属病院
入院棟 A15 階から望むスカイツリー

いるようです。細胞レベルで証明しても、実験動物レベルでの証明も必要となったり、臨床への応用など、年単位の心構えも必要になっているようです。

まだ半年しか経っておりませんが、東京大学での研究の印象についてです。東大には日本のトップクラスの頭脳、施設・設備、資金が集まります。島根大学では各科が共同で使用するような高価な機器が東大では各科、場合によっては各研究室におかれており、それらがいつでも使える状況です。研究といえば、核酸の精製でも試薬の調整を自分で行い時間をかけて行う印象がありましたが、ここでは原理を知らない初心者でも取扱説明書が読めればすぐに使える専用のキット（かなり高価！）があり、これを利用し、高価な機器にセットすると分析ができてしまいます。ある程度慣れてしまえば比較的簡単に自分のアイデアを応用していくことが可能です。今まで自分が抱いていた地道なイメージと異なり、結果を追い求める集団のすぐそばには結果を出すための手段が手の届く範囲にそろっているのです。この環境は、なかなか簡単に真似はできないと思います。

最後になりましたが、私生活について少しお話しします。朝起きたら洗濯機を回し、子供の着替えと離乳食を食べさせることから一日が始まります。9時過ぎに研究室へ行き、ひたすら実験。19時にいったん帰宅し、子供をお風呂に入れ、21時には研究室に戻り、24時頃まで実験の続きや文献検索等を行っています。家と研究室の往復の生活で東京らしさを感じるのは交差点で人が多いことくらいでしょうか？今の生活なら日本のどこにいても変わらないような気がします。なおコンビニは数多いので一人暮らしには困ることは無いと思いますが、スーパーでは魚や野菜などが高く、食材に恵まれていた島根が羨ましく思うことは多々あります。

島根大学を飛び出し、東京へ研究しに来ましたが、後進の方への新たな『道』になれたでしょうか？臨床でご活躍されている方々には『道』をお示しできたでしょうか？基礎研究に興味があり、やってみたいと思った方は是非御連絡下さい。



武田チームのメンバー
(和氣先生の向かって右が武田憲彦先生)

業 績

論文・著書・総説 (2014年春号以降)

(前号までに in press で報告し、掲載済みとなった論文)

1. Yamaguchi K, Yoshitomi H, Ito Shimpei, Ito Saki, Adachi T, Sato H, Watanabe N, Kodani N, Sugamori T, Endo A, Takahashi N, Tanabe K. Left atrial remodeling and recurrence of congestive heart failure in patients initially diagnosed with heart failure. Echocardiography 2014;31:936-940
2. Sato H, Yoshitomi H, Adachi T, Watanabe N, Ito S, Sugamori T, Endo A, Takahashi N, Oda T, Tanabe K. A case with myxoma of the left ventricular outflow tract. J Cardiol Cases 2014;10:13-15
3. Wake M, Takahashi N, Yoshitomi H, Tanabe K. A case of hypertrophic obstructive cardiomyopathy and acquired von Willebrand syndrome: response to medical therapy. J Echocardiogr 2014;12:112-114
4. Pak M, Ito Simpei, Takaeda M, Watanabe N, Sato H, Ito Saki, Adachi T, Sugamori T, Endo A, Takahashi N, Yoshitomi H, Ishibashi Y, Tanabe K. A case of ascending aortic dissection and rupture caused by giant cell arteritis. Int Heart J 2014;55:555-559

(新たに掲載、あるいは in press となった論文)

5. Niihara H, Kohno K, Taketani T, Kaneko S, Ito T, Sugamori T, Takahashi N, Miyaoka T, Okazaki S, Yasuda H, Furuya M, Nagahama M, Morita E. Simple and rapid detection of HLA-A*31:01 for prediction of carbamazepine-induced hypersensitivity using loop-mediated isothermal amplification method. J Dermatol Sci. 2014;74:88-92
6. 福永昇平、石田千尋、中岡明久、伊藤孝史. 重症 MRSA 感染症に対してダプトマイシンとリネゾリドの併用により救命できた維持血液透析患者の 1 例. 日本透析医学会雑誌 2014;47:563-568
7. 松井浩輔、都筑優子、舟木威徳、窪田 実. 腹膜透析カテーテルに卵管采が巻絡し閉塞した 6 例. 日本透析医学会雑誌 2014;47:569-574
8. 渡邊伸英、佐藤寛大、安達知子、伊藤早希、竹田昌希、菅森 峰、遠藤昭博、高橋伸幸、吉富裕之、田邊一明. トラスツズマブ投与中にたこつぼ型心筋症を発症した一例. 超音波医学 2014;41:853-858
9. 朴 美仙、須佐建央、井本宏治、鈴木慎介、園山一彦、河端哲也、小田 強. 高度徐脈と多臓器不全を惹起した急性心房心筋炎の一例. 心臓 (in press)
10. Ito T, Mochizuki K, Oka T, Hanada K, Tanabe K. Study of mizoribine therapy in elderly patients with membranous nephropathy: comparison with patients not receiving mizoribine. Int Urol Nephrol. 2014 Oct 9. [Epub ahead of print]
11. Morris DA, Takeuchi M, Krisper M, Köhncke C, Bekfani T, Carstensen T, Hassfeld S, Dorenkamp M, Otani K, Takigiku K, Izumi C, Yuda S, Sakata K, Ohte N, Tanabe K, Osmanoglou E, Kühnle Y, Dungen HD, Nakatani S, Otsuji Y, Haverkamp W, Boldt LH. Normal values and clinical relevance of left atrial myocardial function analysed by speckle-tracking echocardiography: multicentre study. Eur Heart J Cardiovasc Imaging (First published online: 3 November 2014)
12. Sato H, Yoshitomi H, Watanabe N, Adachi T, Yamaguchi K, Tanabe K. Visually confirmed post-systolic shortening during the recovery period in four cases of Takotsubo cardiomyopathy. J Echocardiogr (in press)
13. Takahashi N, Tanabe K, Ito T, Sugamori T, Endo A, Yoshitomi H, Ishibashi Y. Awareness of salt restriction is not reflected in the actual salt intake in Japanese. Clin Exp Hypertens (in press)
14. Ito Shimpei, Endo A, Okada T, Nakamura T, Adachi T, Sugamori T, Takahashi N, Yoshitomi H, Tanabe K. A case of myocardial calcification with the latent risk of congestive heart failure. Intern Med (in press)

学会・研究会発表 (2014 年春号以降)

1. 足立優也、森山繭子、中島龍馬、角田佳子、近藤正宏、村川洋子、田邊一明. プレドニゾロンで改善した炎症性腹部大動脈瘤の 1 例. 第 110 回日本内科学会中国地方会. 2014.5.31、宇部
2. 伊藤新平、岡田大司、中村 琢、安達和子、中島龍馬、菅森 峰、遠藤昭博、高橋伸幸、吉富裕之、田邊一明. 左室心筋石灰化を認めた 1 例. 第 110 回日本内科学会中国地方会. 2014.5.31、宇部
3. 芦村龍一、伊藤新平、中島龍馬、安達和子、菅森 峰、遠藤昭博、高橋伸幸、吉富裕之、田邊一明. 心腎貧血症候群の 1 例. 第 110 回日本内科学会中国地方会. 2014.5.31、宇部
4. 岡崎浩一、中村 琢、吉富裕之、田邊一明. 非細菌性血栓性心内膜炎を呈した Trousseau 症候群の 1 例. 第 110 回日本内科学会中国地方会. 2014.5.31、宇部
5. 松田紘治、山上育子、遠藤昭博、中島龍馬、岡田大司、田邊一明. 帝王切開術後の外陰部血腫に対する加療中に偶然発見された下大静脈血栓の 1 例. 第 110 回日本内科学会中国地方会. 2014.5.31、宇部
6. 中西宣太、岡 朋大、金 聲根、北野忠志、上平 聡、山内正信、伊藤孝史. 透析用カテーテル挿入時に右甲状頸動脈-内頸静脈瘻を作成した 1 例. 第 59 回日本透析医学会総会. 2014.6.13-15、神戸
7. 福永昇平、岩下 裕、長谷川志帆、花田真希、花田 健、伊藤孝史、椎名浩明. 難治性ネフローゼ症候群に対

- して NSAIDs を用いて Medical Nephrectomy を行った 1 例. 第 59 回日本透析医学会総会. 2014.6.13-15、神戸
8. Liang S, Yamaguchi K, Yoshitomi H, Adachi T, Ito Saki, Takanashi N, Tanabe K. Factors influencing the prognosis of octogenarian with aortic stenosis in the advanced aging society. 25th Annual Scientific Sessions of the American Society of Echocardiography. 2014.6.20-6.24, Portland, USA
 9. Okada T, Yamaguchi K, Yoshitomi H, Adachi T, Matsuda K, Ito Shimpei, Nakamura T, Watanabe N, Nakashima R, Sugamori T, Endo A, Takahashi N, Tanabe K. Left ventricular subendocardial function assessed by three-dimensional speckle tracking imaging in relation to the severity of aortic stenosis. 25th Annual Scientific Sessions of the American Society of Echocardiography. 2014.6.20-6.24, Portland, USA
 10. Yamaguchi K, Yoshitomi H, Ito Saki, Adachi T, Sugamori T, Endo A, Takahashi N, Asanuma T, Nakatani S, Tanabe K. Left ventricular post systolic shortening using three-dimensional speckle tracking echocardiography in patients with severe aortic stenosis. 25th Annual Scientific Sessions of the American Society of Echocardiography. 2014.6.20-6.24, Portland, USA
 11. 伊藤新平、吉富裕之、中村 琢、安達和子、岡田大司、山口一人、新田江里、足立優也、岡崎浩一、黒田紘章、森田祐介、山口直人、中島龍馬、菅森 峰、遠藤昭博、高橋伸幸、田邊一明、織田禎二. 両心房に血栓を生じた一例. 第 11 回島根臨床心エコー図研究会. 2014.6.28、出雲
 12. 足立優也、吉富裕之、菅森 峰、安達和子、山口一人、新田江里、岡田大司、中村 琢、伊藤新平、岡崎浩一、黒田紘章、森田祐介、山口直人、中島龍馬、遠藤昭博、高橋伸幸、田邊一明. Sepsis induced cardiomyopathy が疑われた一例. 第 11 回島根臨床心エコー図研究会. 2014.6.28、出雲
 13. 福永昇平、岩下 裕、長谷川志帆、花田真希、花田 健、伊藤孝史. 当院での IgA 腎症に対する扁桃腺摘出術・ステロイドパルス併用療法の治療成績の検討. 第 57 回日本腎臓学会総会. 2014.7.4-6、横浜
 14. 伊藤孝史、岩下 裕、長谷川志帆、福永昇平、花田真希、花田 健. エビデンスに基づいた蛋白尿の診療. 第 57 回日本腎臓学会総会. 2014.7.4-6、横浜
 15. 福永昇平、岩下 裕、長谷川志帆、花田真希、花田 健、伊藤孝史. Medical Nephrectomy を行った高齢ネフローゼ症候群患者の心理的検討. 第 25 回日本サイコネフロロジー研究会. 2014.7.12-13、岐阜
 16. 伊藤孝史. 笑いの雨が降りますように！モーニングセミナー. 第 25 回日本サイコネフロロジー研究会. 2014.7.12-13、岐阜
 17. 伊藤新平、菅森 峰、高橋伸幸、遠藤昭博、吉富裕之、田邊一明. 心サルコイドーシスの診断に FDG-PET/CT が有用であった一例. 第 24 回日本心臓核医学会学術集会. 2014.7.18-19、松山
 18. 岡崎浩一、吉富裕之、足立優也、伊藤新平、岡田大司、中村 琢、安達和子、中島龍馬、菅森 峰、遠藤昭博、高橋伸幸、田邊一明. 下大静脈・右房内進展腫瘍の 3 症例. 第 104 回日本循環器学会中国四国合同地方会. 2014.7.18-19、岡山
 19. 足立優也、岡田大司、吉富裕之、遠藤昭博、中村 琢、伊藤新平、安達和子、中島龍馬、菅森 峰、高橋伸幸、田邊一明、木下順久. 運動負荷エコーが治療方針の決定に有効であった軽度から中等度僧帽弁狭窄症の一例. 第 104 回日本循環器学会中国四国合同地方会. 2014.7.18-19、岡山
 20. 森田祐介、知念敏也、中田雅也、山下達也、飯高一信、藤田雅樹、菊池達郎、目黒健太郎、慶田毅彦、大平洋司、田邊一明. 植込み型ループレコーダーが診断に有用であった冠攣縮性狭心症による失神の 1 例. 第 104 回日本循環器学会中国四国合同地方会. 2014.7.18-19、岡山
 21. 遠藤昭博、岡田大司、中島龍馬、渡邊伸英、安達和子、菅森 峰、高橋伸幸、吉田泰之、田邊一明. 80 歳以上の患者が早期再狭窄を越えた後に新たな心筋虚血を生じる際の LDL-C/HDL-C 比の影響. 第 23 回日本心血管インターベンション治療学会. 2014.7.24-26、名古屋
 22. 岡田大司、遠藤昭博、吉富裕之、木下順久、山口一人、中島龍馬、菅森 峰、高橋伸幸、田邊一明. 軽度から中等度大動脈弁狭窄症を合併した軽度～中等度僧帽弁狭窄症に対して経皮的僧帽弁交連裂開術を行った一例. 第 23 回日本心血管インターベンション治療学会. 2014.7.24-26、名古屋
 23. 川原 洋、遠藤昭博、内田利彦、美濃地忠彦、田邊一明. アポ蛋白を含めた脂質が経皮的カテーテルイ

- ンターベンション患者の長期心血管イベントに与える影響. 第23回日本心血管インターベンション治療学会. 2014.7.24-26、名古屋
24. 岡田大司、Maidar Tumenbayar、山口一人、渡邊伸英、菅森 峰、安達和子、高橋伸幸、遠藤昭博、吉富裕之、田邊一明. 心臓再同期療法の効果を Activation Imaging で観察できた重症心不全の一例. 第12回先進心血管エコー研究会. 2014.8.24、大阪
25. 小谷暢啓、岡田大司、吉富裕之、田邊一明. アガルシダーゼベータからアガルシダーゼアルファに切り替えて3年が経過したファブリー病の一症例. 第19回中四国心筋症・心不全研究会. 2014.8.30、広島
26. Endo A, Okada T, Nakashima R, Kawahara H, Watanabe N, Adachi T, Sugamori T, Takahashi N, Yoshida Y, Tanabe K. Predictive value of LDL-C/HDL-C ratio on newly developed cardiac ischemia in patients with previous percutaneous coronary intervention beyond the early restenosis. European Society of Cardiology Congress 2014. 2014.8.30-9.3, Barcelona, Spain
27. 伊藤新平、吉富裕之、菅森 峰、遠藤昭博、高橋伸幸、田邊一明. 両心房内に血栓を生じた一例. 日本超音波医学会第50回中国地方学術集会. 2014.9.6、岡山
28. 山口一人、渡邊伸英、菅森 峰、安達和子、高橋伸幸、遠藤昭博、吉富裕之、田邊一明. Activation Imaging で心臓再同期療法の効果を観察しえた重症心不全の一例. 日本超音波医学会第50回中国地方学術集会. 2014.9.6、岡山
29. 岡田大司、遠藤昭博、中村 琢、伊藤新平、安達和子、中島龍馬、菅森 峰、高橋伸幸、吉富裕之、田邊一明. Torunus Pro から Torunus 88Flex へのサイズアップが有用であった右冠動脈慢性完全閉塞の1例. 第21回日本心血管インターベンション治療学会中国・四国地方会. 2014.9.6、岡山
30. 森田祐介、遠藤昭博、足立優也、岡崎浩一、黒田紘章、山口直人、伊藤新平、岡田大司、中村 琢、安達和子、中島龍馬、菅森 峰、高橋伸幸、吉富裕之、木下順久、田邊一明. 完全閉塞を有する多枝病変に対し治療方針決定に苦慮した虚血性心筋症の1例. 第21回日本心血管インターベンション治療学会中国・四国地方会. 2014.9.6、岡山
31. 長谷川志帆、岩下 裕、花田真希、花田 健、伊藤孝史、安食春輝、平岡毅郎、椎名浩昭、佐藤秀一. 難治性腹水および高アンモニア血症を伴う肝硬変合併腎不全患者に腹膜透析を導入後、腹膜炎により腹膜透析を離脱せざるを得なかった1例. 第20回日本腹膜透析医学会. 2014.9.6-7、山形
32. 松井浩輔、都筑優子、船木威徳、窪田 実. PD カテーテル機能不全の原因:皮下トンネルでのカテーテルの離断. 第20回日本腹膜透析医学会. 2014.9.6-7、山形
33. 松井浩輔、都筑優子、船木威徳、窪田 実. PD カテーテル機能不全の原因と頻度. 第20回日本腹膜透析医学会. 2014.9.6-7、山形
34. 高橋伸幸、松下 隆、丸山理留敬、吉富裕之、伊藤新平、岡田大司、中村 琢、安達和子、中島龍馬、菅森 峰、遠藤昭博、田邊一明、石橋 豊、織田禎二. 重症大動脈弁狭窄症患者における弁葉内出血について. 第62回日本心臓病学会学術集会. 2013.9.26-28、仙台
35. 岡田大司、山口一人、吉富裕之、安達和子、伊藤新平、中村 琢、中島龍馬、菅森 峰、遠藤昭博、高橋伸幸、田邊一明. 3D スペックルトラッキング法による左室心内膜下機能評価と大動脈弁狭窄症重症度の関連. 第62回日本心臓病学会学術集会. 2013.9.26-28、仙台
36. 足立優也、岡田大司、吉富裕之、遠藤昭博、中村 琢、伊藤新平、安達和子、中島龍馬、菅森 峰、高橋伸幸、田邊一明、木下順久. 運動負荷エコーが治療方針の決定に有効であった軽度から中等度僧帽弁狭窄症の一例. 第62回日本心臓病学会学術集会. 2013.9.26-28、仙台
37. 遠藤昭博、中島龍馬、岡田大司、足立優也、岡崎浩一、黒田紘章、森田祐介、山口直人、伊藤新平、中村 琢、安達和子、菅森 峰、高橋伸幸、吉田泰之、田邊一明. 経皮的冠動脈インターベンション既往症例が遅発性心筋虚血を急性冠症候群として再発する予測因子の検討. 第62回日本心臓病学会学術集会. 2013.9.26-28、仙台
38. 高橋伸幸、田邊一明、吉富裕之、伊藤新平、岡田大司、中村 琢、安達和子、中島龍馬、菅森 峰、遠藤昭博、石橋豊. 減塩意識の男女差と実際の食塩摂取量について. 第62回日本心臓病学会学術集会. 2013.9.26-28、仙台

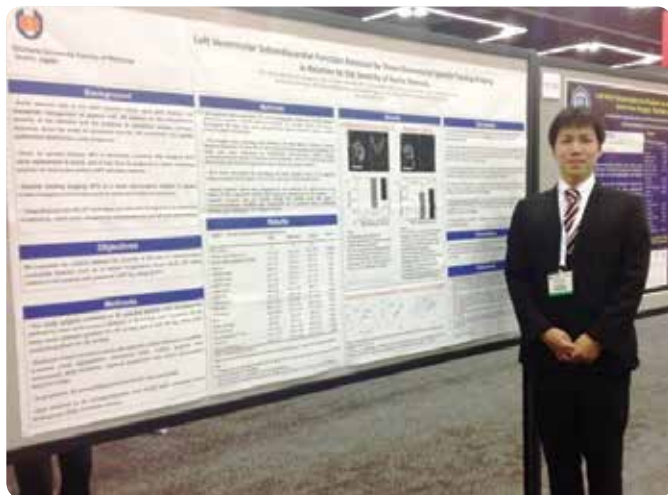
39. 伊藤新平、吉富裕之、岡田大司、中村 琢、安達和子、中島龍馬、菅森 峰、遠藤昭博、高橋伸幸、花田智樹、織田禎二、田邊一明. 両心房内に可動性の血栓を生じた一例. 第 62 回日本心臓病学会学術集会. 2013.9.26-28、仙台
40. 福永昇平、佐藤陽隆、芦村龍一、高瀬健太郎、岩下裕子、望月かおり、花田昌也、伊藤孝史、椎名浩昭. LDL 吸着を施行したコレステロール結晶塞栓症 6 例の検討. 第 35 回日本アフェレシス学会総会. 2014.9.27-28、東京
41. 伊藤孝史. アフェレシスの適応と実際. ワークショップ: アフェレシスの院内教育. 第 35 回日本アフェレシス学会総会. 2014.9.27-28、東京
42. 伊藤孝史. 腎疾患に対するアフェレシス. アフェレシスマニュアルレクチャー. 第 35 回日本アフェレシス学会総会. 2014.9.27-28、東京
43. 高瀬健太郎、岩下裕子、佐藤陽隆、芦村龍一、長谷川志帆、望月かおり、福永昇平、花田昌也、伊藤孝史、佐藤秀一. ネフローゼ症候群を呈したアルコール性肝硬変合併 IgA 腎症の一例. 第 44 回日本腎臓学会西部学術集会. 2014.10.3-4、神戸
44. 中西宣太、岡 朋大、金 聲根、伊藤孝史、石田千尋、中岡明久. 多発性嚢胞腎に合併した腎血管筋脂肪腫の切迫破裂に対し腎動脈塞栓術を施行した 1 例. 第 44 回日本腎臓学会西部学術集会. 2014.10.3-4、神戸
45. 伊藤孝史. 高齢者ネフローゼ症候群の治療戦略. ランチョンセミナー. 第 44 回日本腎臓学会西部学術集会. 2014.10.3-4、神戸
46. Ito Shimpei, Endo A, Okada T, Nakamura T, Adachi T, Nakashima R, Sugamori T, Takahashi N, Yoshitomi H, Tanabe K. A case of myocardial calcification with the latent risk of congestive heart failure. 第 18 回日本心不全学会学術集会. 2014.10.10-12、大阪
47. 田邊一明. 肥大型心筋症の診断・治療. ミニレクチャー. 症例から学ぶ心不全の既知と未知: U40 心不全ネットワーク. 第 18 回日本心不全学会学術集会. 2014.10.10-12、大阪
48. 高橋伸幸、田邊一明、吉富裕之、伊藤新平、岡田大司、中村 琢、安達和子、中島龍馬、菅森 峰、遠藤昭博、伊藤孝史、石橋 豊. 高血圧患者における減塩意識と食塩摂取量の実態と男女差. 第 37 回日本高血圧学会総会. 2014.10.17-19、横浜
49. 黒田紘章、遠藤昭博、足立優也、岡崎浩一、森田祐介、山口直人、伊藤新平、中村 琢、岡田大司、安達和子、中島龍馬、菅森 峰、高橋伸幸、吉富裕之、田邊一明. 肺線維症を合併する強皮症による肺高血圧症への肺血管拡張薬導入を検討した一例. 第 16 回島根心・腎・血管研究会. 2014.10.18、出雲
50. 山口直人、伊藤新平、足立優也、岡崎浩一、黒田紘章、森田祐介、中村 琢、岡田大司、安達和子、中島龍馬、菅森 峰、遠藤昭博、高橋伸幸、吉富裕之、田邊一明. Basedow 病の治療により心不全が改善した高心拍出性心不全の一例. 第 16 回島根心・腎・血管研究会. 2014.10.18、出雲
51. 芦村龍一、岩下裕子、佐藤陽隆、高瀬賢太郎、長谷川志帆、望月かおり、福永昇平、花田昌也、伊藤孝史. 経皮的血管拡張術 (VAIVT) 後にうっ血性心不全をきたしたことを契機に頻脈誘発性心筋症と診断された維持透析患者の一例. 第 16 回島根心・腎・血管研究会. 2014.10.18、出雲
52. 伊藤孝史. 腎不全治療における地域差がかかえる問題点を考える. シンポジウム. 第 23 回中国腎不全研究会. 2014.10.26、広島
53. 芦村龍一、岩下裕子、佐藤陽隆、高瀬健太郎、長谷川志帆、福永昇平、望月かおり、花田昌也、伊藤孝史、椎名浩昭. 鼠径ヘルニア根治術後に後腹膜腔血腫を合併し急性腎障害を来した 1 例. 第 23 回中国腎不全研究会. 2014.10.26、広島
54. 高橋史匡、岩下 裕、長谷川志帆、福永昇平、伊藤孝史、松田紘治、田邊一明、椎名浩昭. 経カテーテル大動脈弁植え込み術 (TAVI) 後に発症したコレステロール結晶塞栓症に対して LDL アフェレシスを施行した 1 例. 第 23 回中国腎不全研究会. 2014.10.26、広島
55. 岡 朋大、岩下 裕、金 聲根、三原裕子、辻野佳雄、高垣謙二、伊藤孝史. 99 歳の水疱性類天疱瘡患者に対して DFPP を施行し改善を認めた 1 例. 第 23 回中国腎不全研究会. 2014.10.26、広島

56. 岩下 裕、岡 朋大、金 聲根、辻野佳雄、高垣謙二、伊藤孝史. 膿疱性乾癬に対して顆粒球吸着療法を施行した1例. 第23回中国腎不全研究会. 2014.10.26、広島
57. 花田真希、片山秀幸、花田 健、石井裕繁、齊藤雄平、漆谷義徳. 低血圧、呼吸困難を呈し、大動脈弁狭窄症に対し開胸した際に収縮性心膜炎が判明した血液透析患者の1例. 第23回中国腎不全研究会. 2014.10.26、広島
58. 花田 健、花田真希、香川亮介、漆谷義徳. 下肢痙攣で発症した血液透析患者における腎癌大腿骨転移の1例. 第23回中国腎不全研究会. 2014.10.26、広島
59. 福島成文、渡部尚人、石川哲造、安達恭子、杉原克彦、福岡優太、宮里恵美、錦織伸司、山中英樹、藤井義久、片寄恭次、岩下 裕、岡 朋大、金 聲根. 血圧低下のため除水困難な透析患者に対し ASV の使用が効果的であった一症例. 第23回中国腎不全研究会. 2014.10.26、広島
60. 藤原公恵、川畑ひとみ、長谷川竜馬、飯塚弘美、伊藤孝史、椎名浩昭. 当院における緊急離脱方法の取り組みと今後の課題. 第23回中国腎不全研究会. 2014.10.26、広島
61. 宇賀田圭、芦村龍一、長谷川志帆、望月かおり、福永昇平、花田昌也、花田 健、伊藤孝史、椎名浩昭. 重症心機能低下を認める高齢者での腹膜透析の有用性. 第23回中国腎不全研究会. 2014.10.26、広島
62. 松井浩輔、塩野 学、都筑優子、船木威徳、窪田 実. 腹膜透析カテーテルの破損:あってはならない合併症. 第23回中国腎不全研究会. 2014.10.26、広島
63. 岩下裕子、長谷川志帆、福永昇平、高瀬健太郎、佐藤陽隆、芦村龍一、望月かおり、花田昌也、伊藤孝史、椎名浩昭. 血球貪食症候群による無顆粒球症を発症した腹膜透析患者の1例. 第23回中国腎不全研究会. 2014.10.26、広島
64. 佐藤陽隆、岩下裕子、高瀬健太郎、芦村龍一、長谷川志帆、望月かおり、福永昇平、花田昌也、伊藤孝史. 当院における腹膜透析関連腹膜炎について. 第23回中国腎不全研究会. 2014.10.26、広島
65. 中西宣太、石田千尋、中岡明久、伊藤孝史. 腹膜透析終了後腹腔内洗浄を行っている低栄養状態の患者にレナジーを使用し、排液混濁を認めた1例. 第23回中国腎不全研究会. 2014.10.26、広島
66. 黒田紘章. 肺線維症を合併する強皮症による肺高血圧症への肺血管拡張薬導入を検討した一例. 心肺 Joint Meeting. 2014.10.30、出雲
67. 黒田紘章. 肺線維症を合併する強皮症による肺高血圧症への肺血管拡張薬導入を検討した一例. 第3回島根肺高血圧症研究会. 2014.11.1、松江
68. 朴 美仙. 頭痛、全身倦怠感で発症した不明熱の1例. 専門医部会教育セミナー. 第111回日本内科学会中国地方会. 2014.11.8、出雲
69. 岡田大司、伊藤新平、中村 琢、安達和子、中島龍馬、菅森 峰、遠藤昭博、高橋伸幸、田邊一明、吉富裕之. Activation Imagingにより心臓再同期療法による興奮伝播の改善を観察できた重症心不全の1例. 第111回日本内科学会中国地方会. 2014.11.8、出雲
70. 大庭詩恵、中村 琢、安達和子、中島龍馬、菅森 峰、遠藤昭博、高橋伸幸、田邊一明、石橋 豊、吉富裕之. 心膜液の排液に伴い一過性の肺うっ血を来した1例. 第111回日本内科学会中国地方会. 2014.11.8、出雲
71. 森田祐介、足立優也、岡崎浩一、黒田紘章、山口直人、田邊一明、知念敏也、大平洋司. 植込み型ループレコーダーが診断に有用であった冠攣縮性狭心症による失神の1例. 第111回日本内科学会中国地方会. 2014.11.8、出雲
72. 伊藤新平、岡田大司、中村 琢、安達和子、中島龍馬、遠藤昭博、高橋伸幸、田邊一明. 心サルコイドーシスの早期診断に FDG-PET が有用であった1例. 第111回日本内科学会中国地方会. 2014.11.8、出雲
73. 中村 琢、安達和子、中島龍馬、菅森 峰、遠藤昭博、高橋伸幸、田邊一明、石橋 豊、吉富裕之. 卵円孔開存と大動脈蛇行による platypnea-orthodeoxia syndrome の1例. 第111回日本内科学会中国地方会. 2014.11.8、出雲
74. 小野浩太、伊藤新平、吉富裕之、田邊一明、花田智樹、織田禎二、石川典由. 両心房内に血栓を生じた1例. 第111回日本内科学会中国地方会. 2014.11.8、出雲
75. 山口直人、伊藤新平、遠藤昭博、高橋伸幸、田邊一明、吉富裕之、山内美香、横本真希、田中小百合、杉本利嗣. Basedow 病治療により心不全改善した1例. 第111回日本内科学会中国地方会. 2014.11.8、出雲

76. 足立優也、伊藤新平、安達和子、中島龍馬、菅森 峰、遠藤昭博、高橋伸幸、田邊一明、吉富裕之. Sepsis induced cardiomyopathy が疑われた 1 例. 第 111 回日本内科学会中国地方会. 2014.11.8、出雲
77. 黒田紘章、伊藤新平、安達和子、中島龍馬、菅森 峰、遠藤昭博、高橋伸幸、田邊一明、吉富裕之. 治療方針決定に運動負荷試験が有用であった冠動脈起始異常の 1 例. 第 111 回日本内科学会中国地方会. 2014.11.8、出雲
78. 水谷和典、中村 琢、高橋伸幸、田邊一明、岩橋輝明、丸山理留敬、吉富裕之. 完全房室ブロックを契機に診断に至ったサルコイドーシスの 1 例. 第 111 回日本内科学会中国地方会. 2014.11.8、出雲
79. 小谷暢啓、仁科雅良、門田勝彦、小黒浩明、山口修平、吉富裕之、東城加奈、池田修一、田邊一明. 末梢神経障害が出現し始めた Thr60Ala ATTR Amyloidosis の 1 症例. 第 111 回日本内科学会中国地方会. 2014.11.8、出雲
80. 中島龍馬、足立優也、岡崎浩一、黒田紘章、森田祐介、山口直人、高橋伸幸、遠藤昭博、菅森 峰、田邊一明. Lisinopril による薬剤性抗利尿ホルモン不適合分泌症候群のため著明な低 Na 血症を来した 1 例. 第 111 回日本内科学会中国地方会. 2014.11.8、出雲
81. 松井浩輔、塩野 学. 肉眼的血尿を呈した重複下大静脈の 1 例. 第 111 回日本内科学会中国地方会. 2014.11.8、出雲
82. 高瀬健太郎、岩下裕子、佐藤陽隆、芦村龍一、長谷川志帆、福永昇平、望月かおり、花田昌也、伊藤孝史. ネフローゼ症候群を伴った成人紫斑病性腎炎の 1 例. 第 111 回日本内科学会中国地方会. 2014.11.8、出雲
83. 佐藤陽隆、岩下裕子、高瀬健太郎、芦村龍一、長谷川志帆、望月かおり、福永昇平、花田昌也、伊藤孝史、多田育賢. 末期肝硬変による肝腎症候群を発症した 1 例. 第 111 回日本内科学会中国地方会. 2014.11.8、出雲
84. 藤井俊吾、高瀬健太郎、佐藤陽隆、長谷川志帆、望月かおり、福永昇平、花田昌也、伊藤孝史、小池千明、椎名浩昭. 尿路結石を合併し溢尿をきたした多発性嚢胞腎の 1 例. 第 111 回日本内科学会中国地方会. 2014.11.8、出雲
85. 福山知香、芦村龍一、岩下裕子、長谷川志帆、望月かおり、福永昇平、花田昌也、伊藤孝史、井上圭太. 膀胱癌で BCG 膀胱内注入療法中に急性腎障害 (AKI) をきたし、原因の鑑別に苦慮した 1 例. 第 111 回日本内科学会中国地方会. 2014.11.8、出雲
86. Ito Shimepi, Endo A, Sugamori T, Takahashi N, Tanabe K. Impact of CT-based attenuation correction imaging with a high speed cadmium-zinc-telluride SPECT myocardial perfusion image to resolve inferior wall attenuation. American Heart Association Scientific Sessions 2014. 2014.11.15-19, Chicago, USA

ASE2014 (Portland) 報告

循環器内科 岡田 大司

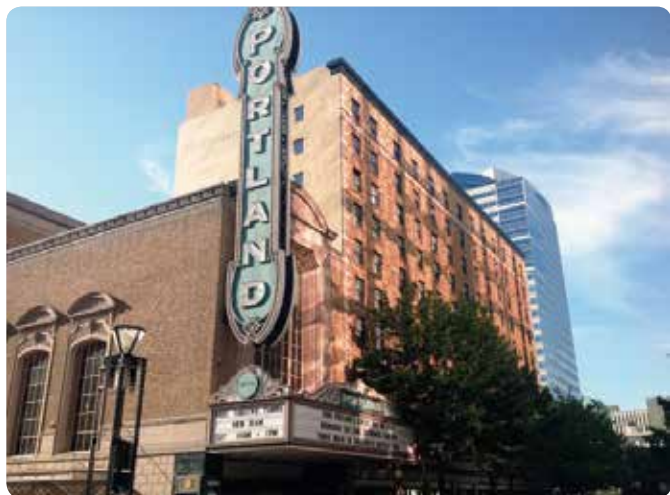


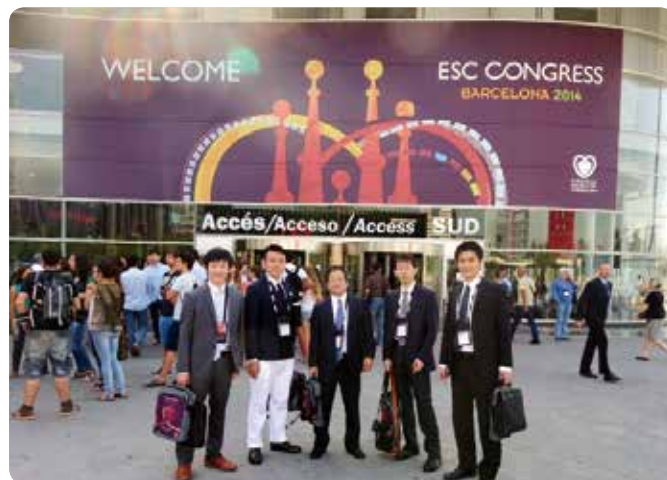
2014年6月20日～24日、オレゴン州ポートランドで開催された第25回 (Silver Anniversary) アメリカ心エコー図学会 (ASE) に田邊教授、検査部・山口さん、梁先生と4人で参加してきました。ポートランドは自然が豊かで環境保護を推進し、地産地消を掲げるレストランやカフェがたくさんあることなどで全米第一環境に優しい都市であるとされているそうです(レストラン・カフェの人口当たりの数も1位、住んでみたい都市でも上位との事でした)。また、気候がバラの栽培に適しており、バラ園が散在しバラの町としても有名な都市です。夕食で行ったレストランでは作家・村上春樹さんの絶賛するイチゴとゴートチーズのサラダも食べました(写真)。土日に開催されていた Saturday Market の雰囲気もよく、街を走る路面電車の利便性からも非常に過ごしやすい町でした。



学会はダウンタウンのホテルから路面電車で5分程度、徒歩でも20分程度のコンベンションセンターで開催されました。教育的なものには人数も多く立ち見も見られました。内容としても非常にベーシックでケースも交えての発表であり、とても理解しやすい発表でした。収縮不全、拡張不全、弁膜症など、どの発表でも日常診療にストレイン法が用いられ始めている事を感じました。

6月22日は私と梁先生の、23日は山口さんのポスター発表でした。始まるまでは気楽な気分でしたが、いざ人が集まってくると、誰かに質問され答えられるだろうかと緊張しっぱなしの1時間でした。今後の研究のきっかけになればと、拡張障害、ストレイン、ストレスエコーの内容のセッション及び各施設のポスターをチェックしましたが、やはり左室ストレインは日常診療に用いられ、今後は左房ストレイン、右室ストレイン、運動負荷が研究の対象となっていく事が予想されます。今回、ASEの演題は3Dストレインを用いて、山口さんの助けのもと何とか発表することができました。自分で3Dストレイン画像を記録するとき、あるいは解析する時に、基本的な事です綺麗な画像描出、技術的な弱点についての知識を十分もってやらないといけなと感じました。伊藤早希先生の留学先の Mayo Clinic の演題はもちろんですが、日本からも多くの発表が通っており、来年のボストンにはより多くの演題が島根から出せるよう頑張ります。





田邊教授に引率していただき、新入局の森田先生、山口先生とともに8月30日から9月3日までスペインのバルセロナで開催された欧州心臓病学会（ESC 2014）に参加してきました。現地で豊橋ハートセンターに国内留学中の佐藤寛大先生も合流し、計5人での大旅行となりました。前回、10数年前にESCに参加した頃は「AHA や ACC に落ちた演題を出す学会」という認識だったのですが、今や循環器領域において世界最大かつ最高の学会に成長し、今年の参加者は30330人と発表されていました。出雲を出てから飛行機を乗り継ぐこと約19時間、バルセロナに到着したのは現地時間の夜8時でしたがスペインの夕食は9時くらいからが普通だそうで、外はやっと暗くなりつつあるくらいで街には人があふれ、通りに面したバルでビールを片手に夕食を楽しんでいました。ホテルまでの通りは絵に描いたようなヨーロッパの美しい町並みで、両側の建物はすべてがガウディの作品かと思うような歴史と風格を感じさせるものでした。

翌朝、5人そろって張り切って学会場に向かいました。広大な会場は「Central village」を中心にそこから虚血、心不全といったテーマ毎に10の「village」に分かれており、移動に無駄な時間を費やすことなく自分の興味あるテーマを集中して聴講出来るようになっていました。その中でも「バルセロナ」と命名された最大の会場では「Hot Line」として大規模臨床試験の結果が複数の大型スクリーンを駆使しながら次々と発表されていきました。僕が聞いた発表は残念ながらnegativeな結果となったものが多かったようでしたが、まずはガイドラインを作成することによりどのようなevidenceが不足しているのかを確認し、後からそれを大規模臨床試験で確かめていく、というESCのアグレッシブな姿勢が感じられました。発表者は「次の改定では（この研究の結果に基づき）ガイドラインは書き換えられるだろう」と締めくくり、スライドの最後には「Eur



Heart J 2014; published online today」と表示されます。今まさに新たなevidenceが生まれた瞬間に立ち会えたという興奮を味わうことが出来ました。

初日には早速、寛大先生のポスター発表があり、豊橋ハートセンターでの慢性完全閉塞病変に対する順行性アプローチと逆行性アプローチの合併症の比較を出していました。ESCのポスター発表はfree talkだけではなく、discussantとして偉い先生が回って来るように書いてありましたが、果たして本当に回って来られました。寛大先生の場合是一言二言話しかけたあと、風のように去って行ってしまい、それを見送ると寛大先生は「終



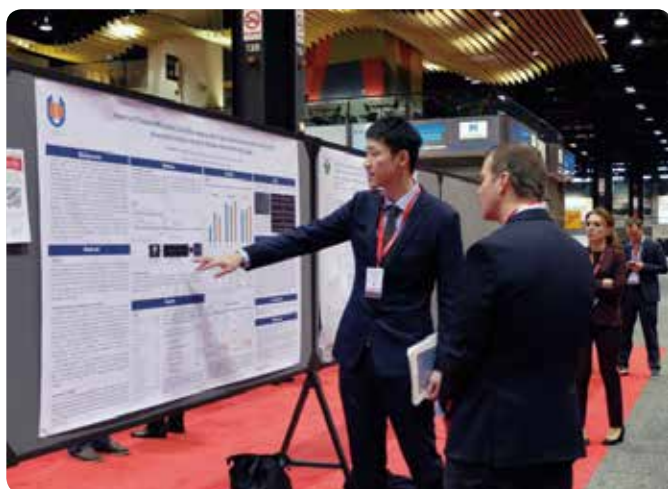
了!!!」とすっかり心に羽が生えてしまっていました。その後、ポスターを見て回っていると多くのドクターを引き連れて回ってくる discussant がいます。よく見るとあの Dr. Patrick W. Serruys（薬剤溶出性ステント研究の世界的権威）ではありませんか。彼は自分で一つ一つのポスターに対して解説を始め、その領域の overview までしてくれました。多くのドクターがついて回る訳です。あんな有名なドクターとこれほど近くで discussion 出来るのも ESC ならではの感動しました。学会4日目、いよいよ私の発表（ポスターですが・・・）の日がやってきました。時間になると程なく、discussant の先生が回って来られました。まずは求めに応じて手短かにプレゼンテーションした後、患者のフォローはどうなっているのか、かかりつけ医との間で管理基準を決めているのか、といったことを（おそらく・・・）質問されました。田邊教授のサポートを受けながら対応し、握手をして別れるまでの5分少々、ずいぶん長く感じましたが何とか無事終えることが出来ました。これでやっと私の ESC が終わりました。

学会場外ではサグラダ・ファミリアを満喫してきました。教会の内部はほぼ完成されており、ステンドグラス越しに差し込んでくる幻想的な光の美しさには言葉ありませんでした。夜になるとライトアップが施され、昼間に見たのとは全く異なる幻想的な姿が現れました。向かいの池に映るサグラダ・ファミリアは更に幻想的で、とてもこの世のものとは思えないほどでした。内部には完成予定の絵画や模型も多く展示されていましたが、それと比べると現状は塔の数がまだ半分くらいであり、何より中央にそびえたつ「イエスの塔」が全く出来ていないようでした。ガウディの没後 100 年である 2026 年までに本当に完成するのでしょうか？

次の次くらいにバルセロナで開催される ESC に参加すれば、完成したサグラダ・ファミリアを見ることが出来るかもしれません。

あっという間の1週間でしたが、久々に参加した海外学会は刺激に富み、自分の視野を大きく広げてくれるものでした。また参加したい、発表したいと思わずにはいられない素晴らしい経験に同行いただいた田邊教授をはじめとする先生方、そして不在中を守っていただいた先生方に心より感謝の意を表します。来年の ESC は8月末からロンドンで開催されます。





11月15日～19日シカゴで開催されたAHA2014で伊藤新平先生が発表でした。新入医局員3人（足立先生、岡崎先生、黒田先生）とともに同行し、学会後はMayo Clinic 留学中の伊藤早希先生を訪ねました。アメリカ50州（ハワイ州も含む）の最低気温が氷点下になる歴史的寒波に見舞われ、シカゴは最高気温が氷点下10℃台と痛いほどの寒さでした。AHAはホテルと会場をシャトルバスで移動しますので、会場との往復で寒さに困ることはほとんどありません。伊藤新平先生のポスター発表は最終日でしたが、質問にきちんと答えていました。初めてのAHA発表おめでとうございます。

11月19日の午前中で学会は終了し、来年はフロリダ州オーランドで開催されるという掲示を複雑な思いで眺めながら、シカゴからさらに凍りついたミネソタ州ロチェスターに移動しました。伊藤早希先生もAHAで発表がありましたが一足先に帰っておられ、空港に出迎えてくれました。11月20日伊藤早希先生にMayo Clinicを案内していただき、エコーラボ、図書館、入院施設であるSt. Marys病院などを見学しました。初めて訪れた若い先生たちには「Mayoからの報告では・・・」のMayo Clinicを目にしたことは価値のあることであったと思います。患者や家族がなぜこの地を目指して旅をするのか。ミシュランの星ではないですが、旅をする価値がない限り、人々がわざわざ凍りつく田舎町に向かうはずがありません。伊藤早希先生は苦勞も多いようですが、仲間に恵まれていい経験をしており安心しました。

伊藤新平先生は4年前の新人海外研修旅行が同じシカゴだったのですが、その地に発表で戻ってきてくれたことをうれしく思います。今年の新入医局員5人が訪れた学会が数年後に目指す学会になっていて欲しいと思います。



同門会コーナー

同門会会長挨拶

後藤クリニック 後藤 泰利



私も開業して13年目になります。医師となってほぼ30年が経過したことになります。同門会長として、新たに入局する若者たちに接すると、その無限の可能性を感じ、羨ましくなります。新入医局員にはこれからどのような医師生活になるのか、不安もあると思います。今回は自分を例にして、4内での生きざまをお話し、なんらかのヒントになればと思っています。私が入局した4内は、大きな関連病院もなく大学での研修がすべて、研究でも日本循環器学会に演題がなかなか通らないような医局でした。現在の4内では日循などは当たり前で、若い先生が海外の学会で演題を発表されているのをみる

と夢のような思いです。私たちの頃、入局2年目は全員が中規模病院に赴任させられ、循環器だけでなく消化器、糖尿病、神経内科などなんでも見るのが要求されました。私は益田医師会病院に赴任しました。ちなみに前任者は田邊教授、懐かしい思い出です。益田では循環器、消化器中心の多くの疾患検査を経験できました。特に消化器は、腹部エコー、内視鏡など多くの経験ができ大変有用でした。開業した後も、上部内視鏡による診断ができているのもこのときの経験が大きいと言えます。今で言えばあまり人気のない病院になるのかもしれませんが、一般内科医としての研鑽にはとてもよかったと思っています。どのような病院に赴任しても必ず得るものがあると言えます。大学に帰ってからは、大学院生として多くの基礎研究をさせていただきました。臨床医としては遠回りに見えますが、この時の研究は決して無駄ではなかったと思っています。吉金先生、本田先生のご指導で自由に研究させていただきました。鳥大解剖学田中教授の指導で走査電顕によるSHR心筋細胞の観察、和歌山大学病理学大島教授の指導での心臓5型コラーゲンの検索など懐かしい思い出です。学内では、病理学の家森教授から多くのSHRの提供をいただき、電顕室の技師さんには大変お世話になりました。その後医学博士取得し、ふと自分を振り返ると、臨床医としてはまだまだ未熟だと判断せざるおえない状況でした。そこで島田先生にお願いして最前線の循環器医療を学ぼうと、松江赤十字病院に赴任させていただくことになりました。松江日赤では、小倉記念病院で活躍されていた中村先生が、心カテ、PCI中心にご活躍で、心臓血管外科は京都大学から来られた松田先生が多くの症例をオペされていました。スタッフとして数多くの症例を経験でき、約10年でなんとか臨床医としての自信をつけることができました。特に救急患者を数多く経験したことは、開業してからも大変役に立っています。CCUで重症患者を診ながらも専門医の勉強をして、循環器専門医、内科専門医を取得できたのもいい思い出です。40歳を期に地元松江で開業しましたが、産業医、学校医、介護審査員などしながら、地域医療に少しでも貢献できるよう努力している所です。医師にも色々な生き様があると思いますが、同門会には沢山の先輩がおられますので、迷ったらなんでも相談してほしいと思います。来年の同門会総会には多くの同門会会員に参加していただき、若い先生にいい刺激を与えてもらえますようお願い申し上げます。

第5回島根大学医学部内科学講座第4同門会総会報告

後藤クリニック 後藤 泰利



平成26年10月18日(土曜日)ホテル武志山荘にて、第4内科同門会総会が開催されました。去年の会計収支が報告され、全員一致で承認されたことを報告します。また次期同門会会長に、後藤が再選され、来年から3期目を務めることになりました。今後ともご支援協力のほど宜しくお願いします。遠方の参加者としては、千葉から倉持雄彦先生、兵庫から北村順先生、山口から梅野哲弘先生、広島から田原寛之先生が参加してくれました。倉持先生は、現在千葉西総合病院副院長兼心臓病センター循環器科副主任部長としてご活躍です。同門会前に開催された島根心、腎、血管研究会にて「Total vascular intervention」の演題で特別講演をしていただきました。



心臓のPCIが年間2,600例、これは日本一の症例数だそうです。さらに末梢血管、内頸動脈、腎動脈の治療も多くなされ、治療成績もきわめて良好とのことでした。また心カテ室は6部屋あり、写真では、まるで未来のカテ室が映画に出てくる印象でした。宇宙戦艦ヤマトの艦橋、またはスタートレックの操縦室をイメージして作られているとのことでした。今後希望者があれば、倉持先生に是非とも御指導していただきたいと思いました。

伊藤先生、田邊先生からは、腎臓内科、循環器内科のこの1年の教室活動、研究成果、学会報告などを、ユーモアを交えながら報告いただきました。最後に今年入局した循環器内科5人、腎臓内科4人の先生から自己紹介をしていただきました。来年は今のところ循環器内科に2人の入局が決まっているとのことでした。最後に川上先生の一本締めで総会は盛況に終えることができました。

来年は平成27年10月17日(土曜日)ウエルシティー出雲で開催されます。できるだけ多くの先生にご参加いただきますよう宜しくお願い申し上げます。





研究会報告 ～ 島根県東部地区循環器研究会

後藤クリニック 後藤 泰利

平成 26 年 9 月 19 日（金曜日）松江東急インにて、田邊教授のご指名で、松江赤十字病院心臓血管外科部長の齊藤雄平先生をお迎えし、第 12 回島根県東部循環器研究会を開催しました。齊藤先生は、1991 年島根医科大学をご卒業になられ、第 1 外科に入局、その後、小倉記念病院、日本赤十字社和歌山医療センターで心臓血管外科医として研鑽をつまれ、2006 年松江赤十字病院に赴任、2014 年 4 月、心臓血管外科部長に就任されています。今回は「松江赤十字病院心臓血管外科の現状と展望」の演題を拝聴しました。高齢化する島根において、毎年 100 例前後の開心術が行われていること、その内訳では大動脈弁のオペが多く、CABG は 30 例くらいとのことでした。高齢者が多いのにもかかわらず、オペ成績は極めて良好で、今後我々循環器内科医としても、安心して患者さまをお任せできると思いました。島根での心臓血管外科発展のため、4 内も支援をしていきたいと思ひます。今後の齊藤先生の更なるご活躍のお祈り申しあげます。



第⑭回
内科学講座第四
**田邊杯
ゴルフコンペ**



平成 26 年 10 月 19 日、同門会総会翌日、大社カントリークラブにて田邊杯ゴルフコンペが開催されました。2 週連続の台風がまるで嘘のような、快

晴無風のベストコンディションの中でのゴルフになりました。朝スタート前、村上先生からは、春秋連覇した人はいないとの優勝宣言がありました。結果は、なんと村上先生の優勝、4 内コンペで初めての春秋連覇達成となりました。おめでとうございます。ドラコンは、後藤、波多野、ニアピンは村上、竹田先生が獲得されました。ベスグロだけは阻止と、私も気合をいれていまして、なんとか 78、ベスグロは獲得できました。若い先生は練習不足で、まだゴルフの楽しさがわからないかもしれませんが、また練習して今後も参加していただけると喜びます。次回は平成 27 年 5 月に行います。



詳しい案内は来年 2 月を予定しています。多くのご参加宜しく願います。

(後藤泰利)



成 績 表						
順位	競技者名	美久我	国引	GROSS	HDCP	NET
優勝	村上 林兎	42	41	83	10.2	72.2
準優勝	北村 順	45	45	90	16.8	73.2
3 位	梅野 哲弘	45	48	93	19.2	73.8
4 位	井上 慎一	40	44	84	9.6	74.4
5 位	田邊 一明	59	47	106	31.2	74.8
6 位	後藤 泰利	42	36	78	2.4	75.6
7 位	波多野 淳	45	51	96	18	78
8 位	竹田 昌希	51	49	100	21.6	78.4
9 位	佐藤 秀俊	54	62	116	34.6	81.2
10 位	足立 優也	86	87	173	36	137
11 位	岡崎 浩一	83	101	184	36	148
12 位	黒田 紘章	107	104	211	36	175

道



編集後記

松下幸之助さんの言葉です。

「もう考えつくされたかと思わせる服飾のデザインが、今日もなおゆきづまっていない。次々と新しくなり、次々と変わってゆく。そして進歩してゆく。ちょっと考え方が変われば、たちまち新しいデザインが生まれてくる。仕事とは、たとえばこんなものである。しかし、人に熱意がなかったら、仕事の神秘さは消えうせる。何としても二階に上がりたい。どうしても二階に上がろう。この熱意がハシゴを思いつかす。階段をつくりあげる。上がっても上がらなくても…そう考えている人の頭からは、ハシゴは出てこない。やはり熱意である。仕事とは、たとえばこんなものである」。

診療、教育、研究とは、たとえばこんなものではないかと思います。熱意がなかったら、診療の、教育の、研究の神秘さは消えうせてしまいます。（田邊）

島根大学医学部内科学講座第四

循環器内科・腎臓内科

〒693-8501 島根県出雲市塩冶町89-1

電話 (0853) 20-2206 (医局資料室ダイヤルイン)

Fax (0853) 20-2201 (医局資料室)

循環器内科ホットライン 070-5672-8109

URL: http://www.med.shimane-u.ac.jp/internal_med4/index.html